

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立南毛利小学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】	校長名 足立 由里
	2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】	
学校教育目標	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	
大楠の木のもとで より良く深く考えて やさしく あかるく たくましく生きる子をはぐむ	学校経営の方針 【目指す学校の姿】 ○安心・安全で笑顔の絶えない学校 ○個性を尊重し、個々の能力を最大限に伸ばせる学校 ○共に学び、励み合って共に育つ学校 ○小中9年間をつなげて学べる学校 【大切な考え方】 ○主役は子ども、支柱は教職員 【行動指針】 ○経営推進 — 想像力と創造性の発揮(全員が当事者！) ○教育活動 — つなげて伸ばし、学びを開く	

今年度の重点目標

- 安心・安全で共に学ぶ楽しい生活の進展(生活指導の充実)
- 確かな学力のより一層の向上(学習指導の充実)
- 保護者や地域の方々と共に学ぶ場の進化
- 学習指導要領の趣旨や内容の確実な実行
- 「3共」の歩みで学校を創る

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
地域に学び、地域を大切に育子に育てる。(地域愛)	1・3	鼓笛隊をはじめ、南毛利小学校の伝統に誇りをもたせる活動を実践した。地域教材の発掘を進め、地域の教育力を学習に生かした。	本校伝統の鼓笛隊の活動は、保護者や地域の方々からの評価も高く、児童にとっては入学時からの憧れである。今年度も運動会での演奏等、伝統継承を意識して取り組むことができた。地域の教育力については、どの学年も適宜学習活動に活用した。一方、地域行事への児童の参加が、コロナの影響もあって低調であり、今後、コロナ収束の際には学校運営協議会での協議等を生かし、参加を促す必要がある。	鼓笛隊については、今後も活動が継続でき、児童が憧れ続けることができるよう、人的・物的なバックアップ体制を構築する。地域の教育力については、引き続き地域教材を発掘して、学習活動に生かす。また、地域行事への参加は、コロナ収束時には、学校運営協議会を活用し、児童に声掛けするなど、参加率向上をめざす。
目標に向かい、より良く深く考えて、学習や仕事に励む子に育てる。(知性・勤勉)	1	今年度もGIGAスクール推進モデル校2年目として、タブレット端末を使った授業の研究を進めてきた。今年度は敢えて「学び合い」を目標から外すことによって、タブレット端末を使うことの意義等を問い直し、その上ですべての児童が参加、活躍できる授業を実践した。	日々の学習活動においては、「学び合い」を中心に据えつつ、個に応じた指導を意識した。一方で、タブレット端末を使っての授業を意図的に進めてきたが、使うことが目的になってしまっていた部分もあった。	昨年度はタブレット端末を使ってみることに焦点を当てて取り組んできたが、今年度はさらに一歩進めて、タブレット端末を使うことが効果的かどうかを研究してきた。今年度は敢えて「学び合い」をタブレット端末を使う授業とは切り離して研究してきたが、次年度は本来の目的である「学び合って、より良く深く考える」授業の研究を進めていきたい。また、発達段階にあった使い方を模索し、学習効果を高めていきたいと思う。
お互いを認め合う思いやりのある子に育てる。(相互尊重・共生)	2・3	道徳教育や特別活動の充実を通じて自立や協力をやり遂げる態度を育成した。一人一人の教育的ニーズに寄り添い、共に学んで成長する支援教育の充実を図った。	道徳科の授業や道徳的体験活動を通じて、児童がお互いを認め合ったり、友達の良さや個性を大切にしたりする場面が多く見られた。また、今年度は人権月間を設定するのではなく、年間を通して、「人権」を意識した取組を行ってきた。委員会が主体となって、「ピンクシャツデー」を設定したり、「人権の木」を各クラスで作ったり、それを異学年で交流したりもして、お互いを思いやる活動を実施した。今後も人権教育を充実させたい。	児童が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、落ち着いた学級づくり、学校づくりに取り組み、人権を大切にするための児童の主体的な取組を創出していき。また、一人一人の教育的ニーズに寄り添いながら、子どもの良さを生かす活動に積極的に取り組んでいく。また、変化する社会に対応できる力を育てていく。
進んであいさつのできる子に育てる。(礼儀)	2・3	あいさつの習慣化や校内規則の遵守に取り組ませる活動を推進した。あいさつの大切さについては、児童に指導するとともに、家庭にも啓発を行った。	朝の「あいさつ運動」や「あいさつチャレンジ週間」等、児童会が中心となってイベント的な取組を行い、児童にあいさつを意識させることができ、校内ではあいさつが増えた。しかし、コロナ禍ということもあって、登下校や地域でのあいさつには今年度も課題が残った。あいさつの習慣化に向けた日常的な指導が大切であると考え。	今年度の実績をふまえた上で、新たな取組等を検討しながら更にあいさつを増やしていきたい。また、あいさつの励行とともに、学校規則を徹底させるため、掲示物や児童会活動での啓発をより活発なものとしていく。またWithコロナの中だからこそ、人と人とのつながりをつくるきっかけになるだろうあいさつの大切さを指導していきたい。
いのちを大切に、体を鍛え、目標に向けて粘り強くチャレンジする子に育てる。(健康・体力・挑戦)	1・2	集会や儀式の際には「命は一つ」という話をし、児童に生命尊重の大切さをその都度、再認識させた。自己の体力に関心をもたせ、充実した体育指導を展開したり、健康の増進につながる保健・給食指導を行った。	全校集会での講話等で身体の安全や生命の尊さについて話し、自分の身をいかに守っていくかという児童の意識も高まった。また、「ドッジボール大会」や「なわとび月間」の実施は、自己の体力に関心をもたせるきっかけにもつながった。手洗い、うがいを徹底させるとともに、日々の保健・給食指導を通じ、より健康的な生活が継続できるようにさせていきたい。	積極的・予防的な児童指導を一層充実させ、必要な情報を共有して、いじめと暴力行為の根絶に向けて職員一丸となって取り組む。また、体力の向上については、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、制約が多い中で思うような体力向上には結びついていない。今後は、内容を精査し、より効果的な活動となるように計画していく。

今年度の学校関係者評価委員会からの報告

今年度もコロナ禍の学校において、状況を見ながら感染症対策を柔軟に行ってきた現状について、また、その中でも児童が生き生きと活動している様子や、変化に対応しつつ、様々な教育活動に力を入れて取り組んでいることについて、高く評価していただいた。「あいさつ」については、コロナ禍でのマスク着用も大きく影響し、年々低調であるので、今後の積極的な活動に期待したいとの声が多かった。また、コロナ収束後には地域の教育力を積極的に取り入れていくことと子ども達が地域で活躍できる場の創出について望まれていた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

今年度は、GIGAスクール推進モデル校2年目の取組を行ってきた。他の学校の先駆的役割を担うべく、タブレット端末を有効に取り入れた授業等に取り組んだ。今後は、教育内容や教育環境が大きく変化していく中で、今年度の検証をしていって、児童一人一人の教育的ニーズに寄り添い、生活指導と学習指導の一層の充実を図るため、地域の教育力も活用しながら、教育活動を推進していく。また次年度は、地域の力を借りながら、150周年記念事業を子どもたちにとって思い出に残るようなものにしていく。教職員においては、ワーク・ライフ・バランスの観点から、「働き方改革」の意識もさらに高めていきたい。